

国語
国語総合

令和四年度福岡県農業大学校入学試験問題

※解答はすべて解答用紙に記入すること

□ 次の文章は、三四郎という青年が熊本の旧制高等学校を卒業後、大学で学ぶために上京した場面を描いたものである。よく読んで後の設問に解答せよ。

三四郎が東京で驚いたものはたくさんある。第一電車のちんちん鳴るので驚いた。それからそのちんちん鳴るあいだに、非常に多くの人間が乗ったり降りたりするので驚いた。次に※丸の内ノボリで驚いた。もっとも驚いたのは、①どこまで行っても東京がなくならないということであった。しかもどこをどう歩いて、材木がほうり出してある、石が積んである、新しい家が往来から二、三間引っ込んである、古い蔵が半分とりくずされて心細く前の方に残っている。すべての物が②ハカイハカイされつつあるようにみえる。そうしてすべての物がまた同時に建設されつつあるようにみえる。たいへんな動き方である。

三四郎はまったく驚いた。要するに普通のいなか者がはじめて都のまん中に立って驚くと同じ程度に、また同じ性質において大いに驚いてしまった。今までの学問はこの驚きを予防するうえにおいて、売薬ほどの効能もなかった。三四郎の自信はこの驚きとともに四割がた減却した。③不愉快でたまらない。

この劇烈な活動そのものがとりもなおさず現実世界だとすると、自分が今日までの生活は現実世界に※毫ちよも接触していないことになる。④洞が峠で昼寝をしたと同然である。それではきょうかぎり昼寝をやめて、活動の割り前が払えるかという、それは⑤コンナンである。自分は今活動の中心に立っている。けれども自分はただ自分の左右前後に起こる活動を見なければならぬ地位に置きかえられたというまで、学生としての生活は以前と変わるわけではない。世界はかように⑥する。自分はこの⑥を見ている。けれどもそれに加わることはいらない。自分の世界と現実の世界は、一つ平面に並んでおりながら、どこも接触していない。そうして現実の世界は、かように⑥して、自分を置き去りにして行ってしまう。⑦はなはだ不安である。

三四郎は東京のまん中に立って電車と、汽車と、白い着物を着た人と、黒い着物を着た人との活動を見て、こう感じた。けれども学生生活の裏面に横たわる思想界の活動には毫も気がつかなかった。――⑧明治の思想は西洋の歴史にあらわれた三百年の活動を四十年で繰り返している。

三四郎が動く東京のまん中に閉じ込められて、一人⑨うちに、国元の母から手紙が来た。東京で受け取った最初のものである。見るといろいろ書いてある。まず今年は豊作でめでたいというところから始まって、からだを大事にしなくてはいけないという注意があって、東京の者はみんな利口で人が悪いから用心しろと書いて、学資は毎月月末に届くようにするから安心しろとあって、勝田の政さんの従弟に当る人が大学校を卒業して、理科大学とかに出ているそうだから、尋ねて行って、万事よろしく頼むがいいで結んである。肝心の名前を忘れたとみえて、⑩ランガイというように野々宮宗八のと書いてあった。このランガイにはそのほか二、三件ある。作の青馬が急病で死んだんで、作は大弱りである。三輪田のお光さんが鮎あづをくれたけれども、東京へ送ると途中で腐ってしまうから、

家内で食べてしまった、等である。

三四郎はこの手紙を見て、なんだか古ぼけた昔から届いたような気がした。母にはすまないが、こんなものを読んでいる⑩ヒマはないとまで考えた。それにもかかわらず繰り返し二へん読んだ。要するに⑫自分がもし現実世界と接触しているならば、今のところ母よりほかにないのだろう。

出典 夏目漱石 「三四郎」より

※丸の内・・・東京都心の地名

※毫も・・・少しも

問 1 傍線部②⑤⑩⑪のカタカタの部分の漢字で示せ。

問 2 傍線部① どこまで行っても東京がなくならない」とは主人公のどのような心理を表現していると考えられるか。次の中から最も適切なものを選び記号で答えよ。

ア 辺りの雰囲気東京という地名の持つ意味を最も適切に表わしていると感じた。

イ 東京の都会としての開発が果てしなくどこまでも続いているという印象を持った。

ウ 早く郊外に出て大都会独特の騒がしさから逃れたいと感じている。

エ 郷里で聞いていた東京の様子と目の当たりにする現実との違いに戸惑っている。

問 3 傍線部③のように主人公が「不愉快でたまらない」と感じたのはなぜか。その気持ちを説明したものとして最も適切なものを次の中から選び記号で答えよ。

ア 東京に自分の郷里と相通じるものがあることを期待していたが当てが外れたことによる落胆。

イ 学校で学んできた東京の有様と自分が想像してきた東京の実態とが僅かながら重なって見える事に対する驚き。

ウ 今まで自分が学んできたことが、直面する現実を理解するのに全く役に立っていないことに対するいらだち。

エ 自分が田舎出身であることを再認識し、一刻も早く都会人にならなくてはならないという焦り。

問 4 傍線部④と同じ意味の熟語を次の語群から選び記号で答えよ。

ア 排他主義

イ 日和見主義

ウ 功利主義

エ 御都合主義

問 5 空欄部⑥に挿入する最も適切な二字熟語を次の語群から選び記号で答えよ。

ア 硬直

イ 対比

ウ 動揺

エ 孤立

問 6 傍線部⑦ ほなはだ不安である」と感じた理由を説明したものとして最も適切なものを次の中から選び記号で答えよ。

ア 社会の過去と現在の不一致に悩み正解を見いだすことができそうにもない不安。

イ 今までに経験したことがない心の動揺を隠しきれそうにもないことへの不安。

ウ 想像していた都会の豊かな生活を実現できそうにもないことへの不安。

エ 急激な現実社会の進展に取り残されてしまうのではないかという不安。

問7 傍線部⑧ 明治の思想は西洋の歴史にあらわれた三百年の活動を四十年で繰り返して
いる。」とはどういうことをいっているのか。次の中から最も適切なものを選び記号で
答えよ。

ア 主人公が学生生活と現実の東京での生活が大きく乖離していることに気が付いていな
いこと。

イ 主人公が西洋的な発達を遂げつつある東京に不安を伴いつつもある種の憧憬をもって
臨もうと覚悟を決めたこと

ウ 西欧が長年かけて進展してきた近代思想を明治という時代はそれをも一挙に変革し成
し遂げようとしていること

エ 明治という時代は外見だけの西欧化を目指しており思想という観点においては西欧か
らは置き去りにされていること。

問8 空欄部⑨に挿入するものとして最も適切なものを次の中から選び記号で答えよ。

ア 納得している

イ 傍観している

ウ ふさぎこんでいる

エ 微笑んでいると

問9 傍線部⑫ 自分がもし現実世界と接触しているならば、今のところ母よりほかにない
のであろう」に込められた主人公の思いはどのようなものであると推察されるか。次の
中から最も適切なものを選び記号で答えよ。

ア 母からの手紙で故郷の様々な出来事を紹介されて帰心矢の如しとの思いに駆られるよ
うになったこと。

イ 急速に西洋化されつつ東京の現実を目の当たりにして田舎の生活のどかさがるか
遠い世界のことに感じられること。

ウ 東京の急速な西欧化に驚くとともにその速度についていくことができずに孤独感を感じ
ていたところに届いた手紙に唯一、現実との接点を感じ得たということ。

エ 故郷のこと、東京にいる知人のこと、そして学費のことなど改めて母の子を思う温か
さに触れて強く感動したこと。

問10 次の小説の中から①夏目漱石の作品を二点選び記号で答えよ。さらに、漱石と同時代
に活躍した文豪②森鴎外の作品を二点選びそれぞれ解答欄に示せ。

ア 高瀬舟 イ それから ウ 阿部一族 エ 羅生門

オ 門 カ 真実一路 キ 城の崎にて

□ 次の文章を読んで後の設題に答えよ。

姑は「姑」を宣伝し、嫁は「嫁」を宣伝するために、一家に風波が立つ。双方①ゴカクで
ある場合はまだ幸いである。いずれか一方の勢力がまされば禍わざわいである。

同じような事は、違った人生観や社会観を持った人々の群れの間に行なわれる。いずれも
一つの善い事を宣伝せんために他の善い事②の存在を否定するから起こる。困った事にはそれ
がどちらも善い事なのである。そしてそれを
る。

③桃や李すももは、物を言わないのに木陰にはひとりでに道ができる。「昔の人はこんな事
を言って侵略的宣伝を否定した。しかし今のように桃や李の数がふえてしまつては、この言
葉はほんとうに時代遅れになったのかもしれない。それにしてもほんとうによい美しいすぐ

れた花なら、少なくともそういう花を捜して歩いている人の目にいつかは触れないものだろうか。④危険を冒して※懸崖にエーデルワイスを捜す人もある。昼提灯をさげて人を捜した男もあつたのである。

しかしこれはあまりに消極的な考えかもしれない。自分はここでそういう古い消極的な独善主義を宣伝しようというのではない。また自然の野山に黙って咲く草木の花のように、ありとあらゆる美しい事、善い事が併立していられないからと言って、そのために⑤この世をはかなんで遁世の志をいさぐというわけでもない。

宣伝が⑥に行なわれて天下を※風靡する心配がないからこそ世に宣伝という事がいつまでも行なわれている。宣伝の必要のあるというのは、つまりその事がらどこか※偏頗であり、どこか無理がある事を証明するのだとすれば、結局宣伝というものは別に恐ろしいものでもなんでもなくなるわけである。むしろ適当な程度の宣伝が各方面からせり上げてそのすべての合力によって世の中が都合よく正当な⑦キドウを運転して行くのかもしれない。あるいは実際多くの宣伝者自身がこれぐらいの心持ちでめいめいの宣伝をやっているのかもしれない。そうだとすれば始めから問題はなくなる。これまで自分の考えたようないろいろの心配などは畢、竟誇大妄想病者の空中に描く⑧ゲンエイのようなものかもしれない。しかしはたしてそうであれば、現在行なわれているいろいろの宣伝がもう少しちがった色彩を帯びてもいいわけではあるまいか。

出典 寺田寅彦 神田を散歩して」より

※懸崖 切り立った崖

※風靡 風が草木をなびかせるように広く多くの者をなびき従わせること

※偏頗 偏っていて不公平なこと

問1 傍線部①⑦⑧のカタカナ部を漢字で示せ。

問2 空欄部②に挿入する語句として最も適切なものを次の中から選び記号で答えよ。

- ア 誤解すべき
- イ 融和すべき
- ウ 宣伝すべき
- エ 断罪すべき

問3 傍線部③は 桃李(とうり)もの言わざれども下(した)自(おのずか)ら蹊(みち)を成す」という故事成語からとられた語句であると思われる。この言葉にはどのような意味があると思われるか。次の中から最も適切なものを選び記号で答えよ。

- ア 人徳がある人は自然と人々から尊敬の念を抱かれるということ。
- イ 桃や李は多くの人に好まれる一方ではそれを否定する人たちも多いこと。
- ウ 人徳とは表面的なものであり人の価値というものは行動だけでは評価できないこと。
- エ 桃や李は果実そのもののおいしさゆえに広く人心を惑わせるということ。

問4 傍線部④はどのようなことを言っていると思われるか。次の中から最も適切なものを選び記号で答えよ。

- ア 人というものは自らの愚かさに気が付かず危険な行為に及ぶことがある。
- イ 人は多少の危険や無理をしても理想とするものを追求するものである。
- ウ 人は自らの行動を省みることなく自分の利益を追い求めるものである。
- エ 人というものは自ら掲げる理想なくしては生きていくことができないものである。

問5 傍線部⑤の指し示す内容として最も適切なものを次の中から選び記号で答えよ。
ア 世間との交わりを避けて生きていこうとする考えを抱くこと。
イ 美しく善いものをさらに探求しようとして生きていくこと。

ウ 自然の野山の中に身をひそめて再起を図ろうと高い志を持つこと。

エ 消極的な考え方を捨てて何事にも積極的に生きていこうと考えること。

問6 空欄部⑥に挿入する語句として最も適切なものを次の中から選んで記号で答えよ。

ア 空想的

イ 抽象的

ウ 絶望的

エ 理想的

問7 次の選択肢の中で本文に述べられているものと合致するものを選び記号で答えよ。

ア 世の中の宣伝というものに潜む危うさについて作者は多少なりとも危惧している。

イ 世の中の宣伝というものはつまるところ他者を肯定することを建前としている。

ウ 世の中に宣伝というものが存在する限り真の意味での心穏やかな日々は訪れない。

エ 世の中の宣伝というものは所詮すぐに忘れ去られる事象であり害あるものではない。

三 次の空欄部①～⑩に語群Aから適切な漢字を選び挿入することにより四字熟語を完成せよ。さらにその四字熟語の意味を語群Bから選び記号で答えよ。

ア ①機 ②して学業に励むことを決意した

イ 人生というものは ③ ④ の積み重ねである。

ウ ⑤依 ⑥とした考えかたを打破する。

エ ⑦前 ⑧後の事態に陥る。

オ ⑨若 ⑩人の振る舞いは慎むべきである

語群A

会	新	得	心
然	傍	絶	前
空	無	転	期
			武
			態

語群B

- a 過去にも例がなく将来も起こりえないこと。
- b 昔のままでも進歩も発展もないこと。
- c 何の努力もせずに勝手気ままに暮らすこと。
- d あることを契機として気持ちやすっきりと入れ替えること。
- e 人生における一度きりの出会いと別れのこと。
- f 誰にも遠慮なく勝手気ままに振る舞うこと。
- g あることをきっかけとして心や気持ちを良い方に入れ替えること。

